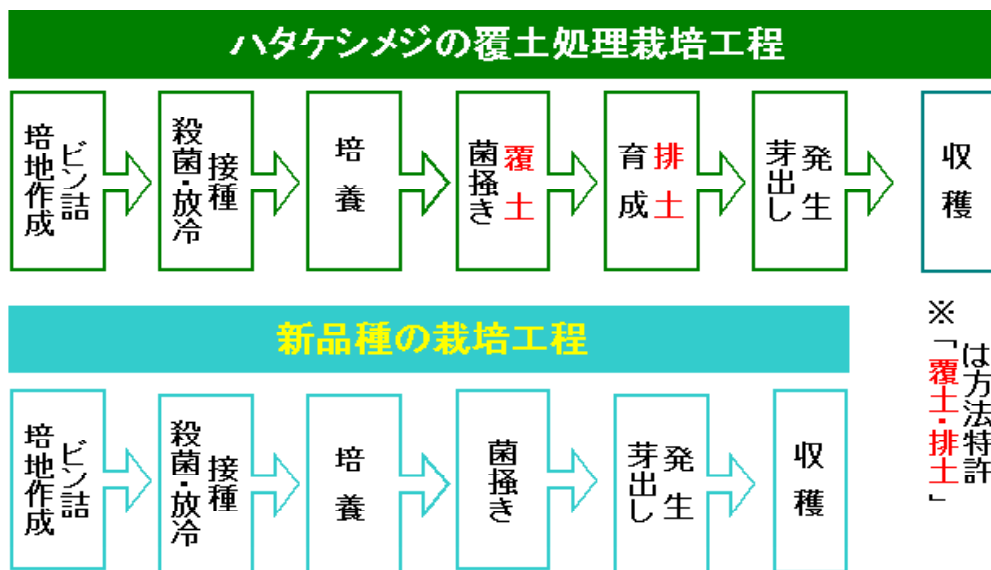


省力栽培が可能なハタケシメジの新品種を育成

食感や食味に優れ、調理用途の広いハタケシメジは、新しい栽培きのこととして注目されています。しかし、従来のハタケシメジでは、ビン栽培において覆土・排土工程が必要とされ、方法特許となっている。環境管理など栽培条件の設定が難しい。きのこ（子実体）が小ぶりでブナシメジとの差別化が難しいなどの課題がありました。そこで、これらを解決できる本県オリジナル品種を育成しました。現在、「彩の子」の名前で品種登録され、県内大手スーパーで販売されています。



ハタケシメジのビン栽培には増収と奇形回避のため栽培工程に覆土処理が必要でした。しかし、本県オリジナル品種の「彩の子」ではこの処理を省略することができます。



ハタケシメジの本県オリジナル品種「彩の子」は、食感や食味に優れ、調理用途が広く、傘が丸山型、柄がトックリ型で、ブナシメジより大振りです。